

財光寺中学校便り

3月号

文責：鈴木利明（校長）



卒業式 式 辞（一部省略）

卒業生のみなさん、みなさんとは一年という短い時間でしたが、一緒に学校生活をおくれたことを嬉しく思っています。みなさんは、返事や反応が良く明るくいつも元気な三年生でした。

さて、これまでにいろいろなメッセージを皆さんに送ってきました。

コップに残った半分の水について話をしました。コップに入った半分の水を見て、あと半分しか残っていないと思うのか、まだ半分も残っていると思うのか、そして、誰かが半分残してくれていると思うのかという話です。物や出来事を見る方向によって違ってくるという話です。そこで、一番大切なことは、半分水を残す人になって欲しいということでした。ぜひ、まわりのことを考えて行動できる人になってください。そして、先日は、一人一人の個性を大切にしたいこと、いろいろなことに挑戦して欲しいこと、人との出会いの中には、人生を左右するアイデアが隠れていること、笑顔は伝染するという話をしました。

こうやって、いろいろなメッセージをみなさんに送ってきましたが、私から卒業生のみなさんへ送るメッセージは今日が最後となります。

今、皆さんが手にした卒業証書。その一枚の紙の中にたくさんのものが詰め込まれています。

今、手にしている卒業証書の最初には、「卒業証書」と書かれてあります。この証書は中学校を卒業したという証なのです。

次に、みなさんの名前が書かれてありますね。世界であなただけの卒業証書なのです。だからこそ、ここに、しっかりとあなたの名前が書かれてあるのです。その名前、中学校生活で何度呼ばれてきたでしょうか。

卒業証書授与の時、学級担任の先生がみなさんの名前をしっかりと呼びました。みなさんはもう卒業です。学級担任の先生が中学生のみなさんの名前を呼ぶのは、今日が最後です。もう中学生としてみなさんの名を呼ぶことはできないのです。

次には、あなたの誕生日が書かれています。ここに書かれてある日に、あなたは生まれたのです。そして今日まで生きてきました。いろいろなことがあったと思います。でも、みなさんはどんなことも乗り越え、今日、義務教育を終えることができました。

ここに書かれてある日、その日はどんな日だったのでしょうか。天気はどうだったのでしょうか。寒かったでしょうか、暖かかったでしょうか。どんな日であっても、ご家族や親戚の人達はあなたが生まれたことをどれほど喜んでくれたことでしょう。あなたの命が生まれた日なのです。

今日までのことを振り返ってみてください。どれほどの方に、どれほどのことをしてもらってきたでしょうか。夜泣きをして寝付かないとき、ずっと寝ずにあやしてくれたのは誰ですか。朝、なかなか起きられない時、大きな声で起こしてくれたのは誰ですか。入学式の時、みんなとおなじように制服や通学バックを用意してくれたのは誰ですか。風邪や病気で熱が出た時、心配してくれて病院に連れて行ってくれたのは誰ですか。忘れ物をした時、そっと学校へ届けてくれたのは誰ですか。部活動の大会や休日練習の日、お弁当を作ってくれたのは誰ですか。

あなたの命が生まれた日から、たくさんの方々があなたを見守ってくれました。あなたは、どれほどのことをしてもらったのでしょうか。そして、どれだけのことを返すことができたのでしょうか。

あなたにとって、一番大切な人は、いちばん身近にいるのです。

卒業証書の真ん中には、皆さんが中学校の課程を修了し、卒業したということが大きく書かれてあります。そして、その日は令和五年三月十六日、今日です。人生の中で幾つかの節目というものがあります。今日はその節目の一つです。次へのステップの節目なのです。中学校を卒業したという意味を、心の中に刻み込んでください。人生は節目があるからこそ、次の成長があります。今日を境に、皆さんは新たなスタートをするのです。人生これから、勇気と自信をもって、素晴らしい人生を歩んでください。

次に書かれている番号は何でしょうか。この番号はあなただけの番号です。財光寺中学校の第一回卒業生からずっとつながっている番号なのです。

財光寺中学校の卒業生は、41年の歴史の中で8,293人います。そしてみなさんは財光寺中学校の良き伝統を受け継いでいます。あなたは財光寺中学校の伝統の中にいるのです。

そして、私の名前が書かれていますが、これは私からの最後のメッセージでもあります。

いよいよ、最後になります。本当に元気のいい最高の3年生でした。これまで、財光寺中学校のために、全力で力を注いでくれたことに感謝します。有り難うございました。

ご家族のみなさん、これから、子ども達に寄り添っていただき、支えてあげてください。義務教育を終えてもまだまだ子どもです。辛いとき、苦しいとき、悩んでいるとき、何があっても一番頼りにしているのは、ご家族の皆さんです。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。そして、これまで学校を支え、応援していただいたことに深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、本当にありがとう。いつまでも、いつまでも、いつまでも、最高の笑顔を大切にしてください。笑顔はみなさんを映し出す鏡です。本当にありがとう。私はとても幸せでした。

以上をもちまして式辞とします。

令和5年3月16日

日向市立財光寺中学校

校長 鈴木 利明



3年生が巣立っていきました。卒業式は十屋日向市長をはじめ、たくさんの方々に御臨席いただき挙行することができました。卒業証書はコロナ禍の影響を受け、昨年まで、学級の代表に渡していましたが、本年度は卒業生全員に直接渡すことができました。答辞は、卒業生を代表して、浅田未羽さんが涙をこらえながら堂々とした立派な姿で読むことができました。3年前の入学式から3年間マスクを付けた学校生活でしたので、その想いも走馬灯のように駆け巡ったのだと思います。学校行事も従来通りとは行かず、辛いことや苦しいこともありました。修学旅行も宮崎県内となってしまいましたが、それでも現実を受け入れ実施できました。これから財光寺中学校を卒業したことに誇りをもって、社会貢献できる人財として活躍することだと信じています。

さて、本年度の学校通信も今回が最後になります。毎月、伝えておきたいことを書いてきました。通信で求めていることは、化学変化です。通信を読んで、一行でもいいのでその言葉を拾って、自分の実生活の中で活用することです。活用すれば必ず何かが変わります。自分が変わることで人に大きな影響をもたらします。それが、人を幸せにすることだったり、人を喜ばせることであったりすれば、どんなに楽しいことでしょう。過去の通信につきましては、財光寺中学校のホームページに掲載されています。いつでも読み返せますので、是非、ご覧ください。

今年一年間全校生徒のみなさんは、学校のため地域のために本当によく頑張ることができました。みなさんは、この財光寺中学校の誇りです。一人一人の足並みは違っても、同じ方向にベクトルが向かっていれば、どんなことだってのり越えることができます。想いがぶれなければ目の前の壁は、必ず扉に変わります。だから、あきらめずに一步一步前を向いて、笑顔を抱いて進みましょう。

一年間、本当にありがとうございました。素敵な春休みを過ごしてください！🌷